

1. 検討の趣旨

本年7月、宇宙開発利用に係る新体制が構築

- ①宇宙開発戦略本部を支える司令塔機能を内閣府に新たに設置(宇宙戦略室及び宇宙政策委員会)
 - ②宇宙航空研究開発機構(JAXA)を政府全体の宇宙開発利用を技術で支える中核的な実施機関と位置付け
- この新体制の下、文部科学省の果たすべき役割を明確化
(※年内にはより具体的な検討を行ない、最終とりまとめを行なう予定)

2. 宇宙開発利用に係る基本認識

- ①国の安全保障への貢献
- ②持続的発展を支える知の源泉
- ③国際的なプレゼンスの確保
- ④人材の育成
- ⑤宇宙特有の社会的効果

3. 新体制下での文部科学省の役割

- ①科学技術や学術・教育の振興が任務
 - ②これまで研究開発を通じて、“新たな知を育て社会につなぐゆりかご”としての役割を果たしてきたところ
- 新体制下においても任務を果たすべく、活力ある未来に向けた「明日への投資」に重点化

具体的には、「宇宙先進国」にまで至った我が国宇宙開発の優位性をより発展させるため、以下を実施

- ①宇宙を知る 研究開発により宇宙のフロンティアを拓く
- ②宇宙を支える 宇宙利用の基盤となる技術の強化や人材育成
- ③宇宙を使う 国民生活の向上、経済社会の発展等に寄与する宇宙利用に貢献

4. 文部科学省の取組の方向性

- ①政府全体の宇宙開発利用を技術で支える中核的な実施機関と位置付けられたJAXAは、今後、各府省や産業界のニーズを受けて一層広範な業務を実施
- ②文部科学省としては、「明日への投資」との観点においてJAXAが業務目標を達成し得るようにリソースを重点化
- ③極めて厳しい財政状況の下、実用に向け一定の成果が得られた段階で新たな研究開発にリソースを振り向けていくことが重要。新たな領域も含め優先順位付けを実施し、新たな研究に振り向けて行くことが重要